

ストックホルム・ケース (2018)

STOCKHOLM

メディア 映画

ジャンル ドラマ 犯罪 コメディ

製作国 カナダ/スウェーデン

色彩 Color

時間 92分

初公開日 2020/11/06

公開情報 トランスフォーマー

映倫 G

【キャッチコピー】

なぜ人質は、
犯人に
味方したのか？

【解説】

人質がいつしか犯人にシンパシーを感じていく“ストックホルム症候群”とよばれる心理現象の語源となった実在の銀行強盗立てこもり事件を、「ブルーに生まれついて」のロバート・バドロー監督とイーサン・ホークのコンビで映画化したクライム・ドラマ。事件の顛末と人質の心の軌跡を、ユーモアを織り交ぜた軽妙な筆致で描き出す。共演はノオミ・ラパス、マーク・ストロング。

1973年、スウェーデンの首都ストックホルム。何をやっても上手くいかない男ラースは思い余って銀行強盗を決断、銃を手に銀行に押し入る。幼い娘を持つ行員のピアンから3人を人質に取り、警察との交渉で犯罪仲間のグンナーを刑務所から釈放させることに成功する。続いて金と逃走用の車を要求するラースだったが、警察は彼らを銀行の中に閉じ込める作戦に出る。次第に長期戦となっていく中、人質のピアンカは、実は根は優しいラースに不思議な連帯感を抱き始めるが…。

【クレジット】

| | | |
|-------|---------------|----------------------|
| 監督 | ロバート・バドロー | Robert Budreau |
| 製作 | ニコラス・タバロク | Nicholas Tabarrok |
| | ロバート・バドロー | Robert Budreau |
| | ジョナサン・ブロンフマン | Jonathan Bronfman |
| | フレデリク・ザンダー | Fredrik Zander |
| 製作総指揮 | スコット・アヴァーサノ | Scott Aversano |
| | ジェイソン・ブラム | Jason Blum |
| | ウィリアム・G・サントール | William G. Santor |
| | ジョン・ヒルズ | John Hills |
| | アンドリュー・チャン＝サン | Andrew Chang-Sang |
| | パトリック・ロイ | Patrick Roy |
| | クリスティーナ・クバッキー | Christina Kubacki |
| | ウィル・ラッセル＝シャピロ | Will Russell-Shapiro |
| | ローウェル・コフィール | Lowell Cauffiel |
| | ジョン・マンケル | |
| | ハリー・スミス | Harry Smith |
| | ドン・ヘイル・J r | Don Hale Jr. |

| | | | |
|-------------|-----------------|-----------------------|-------|
| 原作 | ダニエル・ラング | Daniel Lang | |
| 脚本 | ロバート・バドロー | Robert Budreau | |
| 撮影 | ブレンダン・スティーシー | Brendan Steacy | |
| プロダクションデザイン | エイダン・ルルー | Aidan Leroux | |
| 衣装デザイン | リア・カールソン | Lea Carlson | |
| 編集 | リチャード・コモー | | |
| 音楽 | スティーヴ・ロンドン | Steve London | |
| 出演 | イーサン・ホーク | Ethan Hawke | ラーズ |
| | ノオミ・ラパス | Noomi Rapace | ビアンカ |
| | マーク・ストロング | Mark Strong | グンナー |
| | クリストファー・ハイアーダール | Christopher Heyerdahl | マットソン |
| | ベア・サントス | Bea Santos | クララ |
| | マーク・レンドール | Mark Rendall | エロヴ |
| | イアン・マシューズ | Ian Matthews | ハルステン |